

## ■今月の特選句

2017年8月

## ういてこい一句浮かばぬ前頭葉

南とんぼ

季語「浮いて来い」は、水に浮かべて遊ぶ浮人形のこと。句が浮かばぬのは「ういてこい」が悪いんじゃない。前頭葉のせいだと気が付いての一句。

## どの人を刺すか迷った蚊が我に

小笠原満喜恵

迷っているね。今日は誰を選ぶんだい。早く決めなよ。おや、私を選んだね。嬉しいような迷惑なような。俳句は「優しさ」と「洞察力」が肝腎。

## 0 川島智子

時計は故障することがある。でもね、私の腹時計は正確よ。空腹の度合いを警報で知らせてくれるからね。作者はいつでも原始人に戻れるね。

## 胃カメラを一気呑みする夏真昼

小川鈍太

ええい、ままよ、なるようになれ。覚悟を決めてカメラを飲む。胃カメラは苦しいものだが、帰ってからのご褒美のビールと思って一気に呑みだ。

## 骨休めする暇もなし梅雨の傘

山下正純

長雨で労働荷重の傘を思いやる気持ちがよろしい。金属疲労は勤続疲労でもある。「骨休め」という言葉を土台に、「傘の骨」と掛けて面白い句に。

## 将棋指し上下左右に蜻蛉の目

久我正明

今まさにタイムリーな句。藤井聡太君は表情こそ平静だが、盤上も相手の心理も、複眼で監視しているからね。「将棋さす藤井聡太の蜻蛉の眼」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

カーナビに見放されたる山登り  
・・・此処から先は自己責任よ

柳 紅生

まくなぎや安倍一強にたかると  
・・・野党マスコミみんな虫けら□

前田和男

山下も山中も居る夏の海  
・・・そこへ海野が俺も居るぞと□

下嶋四万歩

胡瓜もみつければ料理してる人  
・・・手作り料理にかわりはないさ

山本 賜

日の盛小便小僧尿詰まる  
・・・排尿困難つらいんだよね□

松井まさし

大雨は喜雨とはならず流れけり  
・・・過剰サービスまっぴらごめん□

高田敏男

あの場面巻き戻しみる昼寝かな  
・・・あの場面とはどの場面だろ□

伊藤洋二

**羽織紋より飛びたちにけり揚羽蝶**

・・・きっと家紋(come on)と招いているね

荒井良明

**オペラ歌手よりも口開く燕の子**

・・・ではご褒美の虫をあげよう

越前春生

**花南瓜虫は花粉におぼれけり**

・・・溺れる虫は蕊をもつかむ□

田中早苗

**牙剥いて降るのか季語の虎が雨**

・・・そう言われても阪神半疑□

稲葉純子

**肩凝らず巢燕に目を凝らしては**

・・・あなたほんとによく懲る(凝る)方(肩)ね

上山美穂

**梅雨明けて社会の窓を閉めわする**

・・・解放感か開放感か

西をさむ

## ■今月の滑稽句

期待して寝て待つ果報大昼寝	青木輝子
【佳作】時と金浪費するなど道おしえ	青木輝子
古妻の一打で仕留める油虫	青木輝子
抱き合ふ鳥模様ある夏のれん	青山桂一
【佳作】傘という字に似せ松を夏に詰む	青山桂一
岩二つ網で結びて夏至近く	青山桂一
金持ちは椿山荘の黒揚羽	赤瀬川至安
六月を煮るか焼かうかジャイアンツ	赤瀬川至安
【佳作】会心の当たりゲッツー若葉風	赤瀬川至安
【佳作】加賀藩の篝火かかぐ鶴舟かな	荒井良明
白無垢のジュンブライド歩む白	荒井良明
玉の汗消耗してますエネルギー	井口夏子
なめくぢり背負ふものなし風来人	井口夏子
【佳作】あばら骨折れて昭和の渋団扇	井口夏子
牡丹散って地べたに赤い曼陀羅絵	池田亮二
【佳作】父の日や瘦せても枯れても親の脛	池田亮二
【佳作】母の日に父の日も来る酒二本	石塚柚彩
梅雨入りの日だけ大雨その後晴れ	石塚柚彩
梅雨の入り入籍したとラインフォト	石塚柚彩
骨シンチわが身の骨に夏寒し	泉 宗鶴
色変わり得ては議員と雨蛙	泉 宗鶴
【佳作】蓮池や来光見たさの午前四時	泉 宗鶴
年頃の娘のバナナ食ぶ姿	伊藤浩睦
四百円の氷ばかりのアイスティ	伊藤浩睦
【佳作】チョコバナナ食べて似たよな糞の出	伊藤浩睦

- |  |                      |
|--|----------------------|
| 【佳作】 半額の刺し身に添ひし紫蘇のつま<br>ときめくや追い越しぎまの黒日傘              | 伊藤洋二<br>伊藤洋二         |
| 酒断ちてすでに三年仏法僧<br>不幸かと思へば不幸閑古鳥                         | 稲沢進一<br>稲沢進一         |
| 【佳作】 出会ひありいつしか別れソーダ水                                 | 稲沢進一                 |
| 【佳作】 開けられて腹を覗かれ冷蔵庫<br>新品の風張り替へし網戸より                  | 稲葉純子<br>稲葉純子         |
| ウイナーと幼子拾ふ花柘榴   | 井野ひろみ                |
| 【佳作】 半夏生咲けば拝観値上がりす                                   | 井野ひろみ                |
| 夏の夜ミーヤの幽霊かもしれないな                                     | 上山美穂                 |
| 【佳作】 身構えた台風かすりもせずに行く                                 | 上山美穂                 |
| 落し文今か今かと待ち惚け<br>後戻りしては進むや盆踊                          | 氏家頼一<br>氏家頼一         |
| 【佳作】 ジングルに丸腰となる敗戦日                                   | 氏家頼一                 |
| 【佳作】 熱帯夜枕も七転八倒の<br>竹夫人納戸の隅に出番待つ<br>白粉にあらず鱗粉夜の蛾のふりまくは | 梅岡菊子<br>梅岡菊子<br>梅岡菊子 |
| 【佳作】 幼子の帯揺れてゐる土曜市<br>子ら覗く梅雨晴の水たまり<br>かき氷食べて染まりし孫の舌   | 梅野光子<br>梅野光子<br>梅野光子 |
| 氷菓子男ばかりがたそがれて  | 越前春生                 |
| 【佳作】 夏座敷のぞき遊びの幼き日                                    | 越前春生                 |

昼暑し捨つるも買ふもお金かな 夏の夜のチャップリン的ビーン的 【佳作】 髪洗ひ猛者となりたる一人の夜	太田史彩 太田史彩 太田史彩
電線や巢立ちの燕五羽並べ 【佳作】 船頭の声に惚れ惚れ夏燕	小笠原満喜恵 小笠原満喜恵
ゆるキャラがひと休みしてかき氷 【佳作】 緑陰に噂話の続きけり 縁日の金魚すくいで見初められ	岡野 満 岡野 満 岡野 満
小次郎の切つ先躲す燕の子 【佳作】 犬搔きに抜かれる爺のクロールかな	小川鈍太 小川鈍太
【佳作】 噴水の飛沫が狙ふ二人かな 雷神よ老いても我は男なり 耳鳴りとコラボ気取りの蝉時雨	加川すすむ 加川すすむ 加川すすむ
【佳作】 軒下に夫の愛せし蝦蟇の裔 短夜や老いて悩みを希望とす	川島智子 川島智子
【佳作】 犬の足ヒールに踏まれ夏至の月 銀行の大きな扉黄金虫	久我正明 久我正明
紫陽花の化学変化と言はれても ぷつぶつとまたぷつぶつと額の花 【佳作】 源氏名のやうに紫陽花色変へる	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
ワイパーのデュエットキュキュキュ梅の雨 夜更けまで働く我は鶉飼いの鶉 【佳作】 ここからは本当の私夏休み	桑田愛子 桑田愛子 桑田愛子

水中花水に抱かれてうつとりと	小林英昭
【佳作】 せつかくのところへ藪蚊きてタイム	小林英昭
大奥に御手の付かない冷蔵庫	小林英昭
【佳作】 蟻の列まづ色を見て形見て	佐野萬里子
台風より梅雨前線大脅威	佐野萬里子
都議選や応援演説逆効果	佐野萬里子
【佳作】 人間をはみだしさうな酷暑かな	下嶋四万歩
白靴の我が父母のハーフかな	下嶋四万歩
人寄せの手先に植うる古代米	壽命秀次
卒寿過ぐまだひよつこと生身魂	壽命秀次
【佳作】 甚平の肩書き好きよ名刺出し	壽命秀次
【佳作】 三文の徳の朝起き明易し	白井道義
物臭な男もつひに更衣	白井道義
内定はとつくの昔六月来	白井道義
忠実に陽を向く花や明易し	鈴鹿洋子
【佳作】 立ち漕ぎの自転車急ぐ青田風	鈴鹿洋子
追肥は家族のため茄子よ太れ	鈴木和枝
おたまじゃくしは聞いている下校の声	鈴木和枝
【佳作】 知事選様子見い見いとマト色づく	鈴木和枝
夏帽子かえズボン履きスニーカー	鈴木哲也
夏の雨窓口業務スーツ着る	鈴木哲也
【佳作】 扇風機機の資料めがけ吹く	鈴木哲也
白扇や浮世言葉を扇ぎ立て	高田敏男
【佳作】 ペンキ屋の看板となり青蛙	高田敏男
年に一度牽牛織姫草食系	高橋きのこ
【佳作】 縁切れぬ私の影と見る西日	高橋きのこ
じりじりと海を焦がして海霧湧きぬ	高橋きのこ

決心の朝パッと咲きアマリリス ホテル火に幼な声のひそやかや 【佳作】梅雨晴れてフラワーシャワー溢れさす	高橋ユミ子 高橋ユミ子 高橋ユミ子
十葉の良さを見直しするべきよ 【佳作】風薫る監視社会を危惧しつつ あぢさゐや醜女の脚を止めさせる	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】餓鬼大将今は昔よ亀鳴けり 潮招き招きて賜れ梅雨前線	田中早苗 田中早苗
ごきぶりに贈る新築一軒家 毛虫焼くあゝなんまいだなんまいだ 【佳作】メイドイン・チャイナの表示アロハシャツ	田村米生 田村米生 田村米生
女子会で自己主張す香水よ 【佳作】冷凍庫名入りのアイス真ん中に 茄子漬けを酒の肴に飲兵衛たち	月城美紀 月城美紀 月城美紀
【佳作】梅雨の間に世の中いつか変わりけり 外来の雑草なれど夏の花 紫陽花は狭庭で愛でて遠出せず	津田このみ 津田このみ 津田このみ
【佳作】富士山は仰ぎ見るもの山開 東の間の肥満改善夏痩せぬ 徐に蝦蟇の義太夫語りかな	都吐夢 都吐夢 都吐夢
二つ挽ぎお裾分けするミニ・トマト 【佳作】屑金魚病む人よりも早く逝く 一強が替はり一強梅雨晴れ間	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】絶叫の暴言議員梅雨籠 大口を言って冷や汗肝試し 都議選に愛媛今治夏の風	中井 勇 中井 勇 中井 勇



	昼寝覚あらまだわたし生きてみた	新島里子
【佳作】	積ん読につい躓くや梅雨の月 物忘れ茗荷食べても食はずとも	新島里子 新島里子
	土用太郎四国三郎でひと休み	西をさむ
【佳作】	下駄箱の欠伸している夏休み	西をさむ
【佳作】	梅雨明けを誰に聞いたか蝉生まる いじめなどなくてメダカの列涼し ビールとも酒とも仲良し冷奴	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
	へや干のシャツが手を振る扇風機 氾濫のなきは佳きこと天の川	原田 曄 原田 曄
【佳作】	七夕や空の密室観覧車	原田 曄
	リハビリの通電中にはたた神	久松久子
【佳作】	高脚蟹砂に三脚据ゑてをり 梅雨しとど野良犬ならぬ迷子犬	久松久子 久松久子
	口閉ぢて親の口待つ燕の子 右に左に草刈機てふ機関銃	日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	陽射より人煩わしサングラス	日根野聖子
	風入れの春画の裸婦の艶めける モトクロス跳び転びたり草いきれ	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	屋上に地ビール呷る喉の声	藤岡蒼樹
	最近は細菌殖える梅雨最中	藤森荘吉
【佳作】	先づ素材デザインよりも涼しげな マンホール些か途方にくれる蟻	藤森荘吉 藤森荘吉
	降れば降る降らなきやダムが梅雨晴れ間 ソフトクリーム惜し気ペロペロ零れ落ち	細川岩男 細川岩男
【佳作】	おとつとお口迎える冷やし酒	細川岩男
	額の花母乳のごとく慈雨をのむ	本門明男
【佳作】	手囲ひの蛍に手相見られけり ほんどうの色はと迷ふ七変化	本門明男 本門明男

- 【佳作】 思ひきや夏の選挙の負けいくさ  
図書館の座席大方昼寝人  
前田和男  
前田和男
- 【佳作】 鈴蘭を贈りきし君今いずこ  
蜘蛛の糸弦にし奏でレクイエム  
原爆忌いつも祖父母は喪服着て  
松井寿子  
松井寿子  
松井寿子
- 【佳作】 少女囲みおどしをかける羽抜鳥  
謹慎の教師梯子で夕立浴ぶ  
松井まさし  
松井まさし
- 涼一献さてそれからがややこしい  
【佳作】 ねむの花忘れたことを忘れてます  
南とんぼ  
南とんぼ
- 老春の色はあぢさみソファミレド  
瘡蓋をとつて後悔せり守宮  
【佳作】 子子はぴんぴん跳ぬるにくき棒  
椋本望生  
椋本望生  
椋本望生
- 【佳作】 歳月をとめて歩まむ蝸牛  
よくしゃべる男の子の好きなサングラス  
藤房の揺れてをみな子はしゃぎけり  
村松道夫  
村松道夫  
村松道夫
- 【佳作】 凶行採決といはむ夏の雷  
そこいらに咲いて気高し靱草  
優曇華を見つけし母の指の闇  
百千草  
百千草  
百千草
- げじげじの足に自信をみせており  
【佳作】 水瓶にあふれる梅雨を集めおり  
白壁や魔女の影の夏少女  
森岡香代子  
森岡香代子  
森岡香代子
- 羽抜鶏姿勢正しく目の据わり  
水かけ論蟬にかけられしは尿か  
【佳作】 浴衣着た外国人に毛脛かな  
八木 健  
八木 健  
八木 健
- ばたんきゆう其のまま朝に明け易し  
万馬券ねらひ外れておけら鳴く  
【佳作】 竹槍にB29だぜ敗戦忌  
八洲忙閑  
八洲忙閑  
八洲忙閑
- 風はゆけ光はとまれ葦簀かな  
【佳作】 幼子もなぜか読めます氷旗  
双方が猫だましする草相撲  
八塚一青  
八塚一青  
八塚一青
- 【佳作】 突っ込みと惚けの掛け合ひ蠅を打つ  
診療は加齢の見立て鰻食ふ  
柳 紅生  
柳 紅生
- ががんぼの基督のごと動かざる  
遊び好き夜の帝王なめくじり  
柳村光寛  
柳村光寛

【佳作】 宮仕え右向け右になる暑さ	柳村光寛
【佳作】 梅雨最中新調靴の待ちぼうけ 汚名返上梅雨時の雨男	山下正純 山下正純
古里の夜道で会った兜虫	山本 賜
【佳作】 あぢさみに詳しい人と遊園地	山本 賜
観光への光を放つ蛍村	横山喜三郎
ピアノ止め囲碁塾予約新樹光	横山喜三郎
【佳作】 保育園真っ青にして青大将	横山喜三郎
程知らず都落ちするきりぎりす	吉原瑞雲
首都民に見分けられてた紅天狗	吉原瑞雲
【佳作】 戸隙より入りくる風の暑いこと	吉原瑞雲